



## 夏の気温は平年並み 浅井氏

—今年の天候の見通しは。

**浅井氏** 4月は肌寒く、平年より気温が低い可能性がある。4～6月の3カ月予報は平均気温、降水量とも平年並みだろう。5月は気温が平年並みか高めと予想する。

6～8月は太平洋高気圧が弱めで、前線や湿った空気の影響を受けやすい見通しだ。夏の気温は平年並みで、降水量が多めに推移するとみている。

**出嶋氏** 今年ほど雪が少ないのは初めて。雪が少ない分、夏の雨が多くなることはないか。

**浅井氏** 雪は全道的にも平年の半分だった。十勝は南側を低気圧が通ると雪が降るが、それがなかった。ただ、低気圧が少なかったわけではない。位置が少しずれるだけで変わるので、夏と冬の因果関係は一概には言いづらい。

—昨年の天候や今後の見通しを受けて、今年の営農をどう考えるか。

**出嶋氏** 昨年は春先の播種（はしゅ）は順調で、6月上旬までは良かった。その後ぐずついて、1番牧草の収穫最盛期に天気が良くならなかった。十勝全体で1番草は量はあったが、品質は悪かった。6月上旬に収穫し終えていた人はそれなりのものが取れていたと思う。

飼料用トウモロコシは9月の台風で部分的に倒伏した。品質がそこそこのサイレージはできたものの、収量がなかった。南十勝はどういうわけかここ4、5年倒伏が続いている。手持ちの飼料用トウモロコシの量が少ないので、今年は6月の天気が良くなって牧草を確保しないと、乳量に影響が出るかもしれない。



## 作業体系の備え必要 坂東氏

2019年1月19日付 十勝毎日新聞掲載

**坂東氏** 畑作も昨年は春までは順調だった。ただ、上旬を過ぎると毎日低温注意報が出ていた。植え付けが早いジャガイモやビート、大豆は大丈夫だったが、小豆、菜豆は初期生育から低温に当たった。7月の大雨を食らい、それが秋まで尾を引いた。

そんな中でもよく取れた人は、畑の水はけが良かった。黒ボク土、粘土、低地の畑では基盤整備の実施状況で明暗が分かれた。

最近雨、暑さ、寒さが長く続く。これが標準だと考えるしかないのだろう。いつどんな天気が来てもいいような作業体系にする必要がある。

**浅井氏** 昨今は気象現象が局地化、集中化している。坂東さんが言うように、厳しい現象にどう対応するかが大事だろう。

—どんな技術対策が必要になるか。

**西村氏** 基本技術を守ることだ。条件の違いはあるが、土壌排水をきちんと整備する。それと有機物を投入する土づくり。基盤をきちんとし、栽培も基本を励行する。できることをやるのが大事だ。



## 今年は牧草収穫期待 出嶋氏

—去年の気象についてはどう考えるか。

**西村氏** 93、94年の冷害ほどではないが、雨が長かった。やはり初期生育は大事なので、そのときの低温、長雨は影響がある。牧草は刈り取れないのが大きかった。乳量にも影響があったらうし、輸入飼料の購入で経営にも響いたらう。